

3. 経年の観察

(1) 年齢調整り患率（人口 10 万対）の年次推移

がんのり患状況について、神奈川県悪性新生物登録事業が発足した昭和 45 年から、今回集計した平成 26 年までをり患数の多い部位について、経年的に図示した（図 12）。部位別にみると胃のり患率の減少がみられている。胃では男女それぞれ昭和 45 年のり患率は 86.6、48.4 であったが、平成 26 年は 43.1、15.7 に減少している（付表 25）。逆に、増加傾向を示している部位は、男では肺、結腸、直腸、前立腺、女では乳房、子宮、結腸、肺、直腸であった（付表 25）。

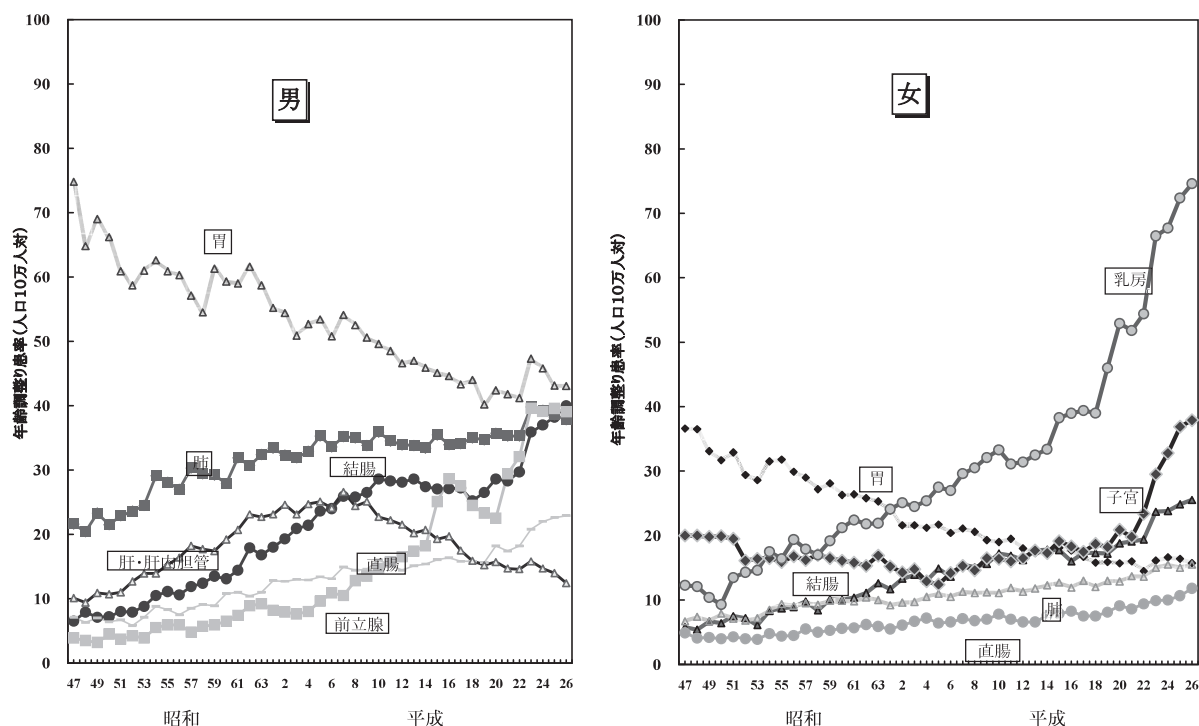


図 12 年齢調整り患率の年次推移

(2) 年齢階級別のがんり患率の年次推移

昭和 54 年から平成 26 年までの 36 年間を 12 の期間（昭和 54－56 年、昭和 57－59 年、昭和 60－62 年、昭和 63－平成 2 年、平成 3－5 年、平成 6－8 年、平成 9－11 年、平成 12－14 年、平成 15－17 年、平成 18－20 年、平成 21－23 年、平成 24－26 年）に分けて計算した。年齢階級は 0－14 歳、15－39 歳、40－64 歳、65 歳以上の 4 グループに分けて年次変化をみた（図 13）。

部位別では胃や肝・肝内胆管で男女の減少がみられるが、逆に男女の口腔・咽頭、結腸、直腸、肺、前立腺、膀胱、乳房、卵巣、皮膚に増加がみられ、また、子宮の 15－39 歳でも増加の傾向がみられている。年齢階級別にみると、65 歳以上の年代が、り患率が高くなっているが、乳房は子宮は、40－64 歳の年代がり患率が高くなっている。

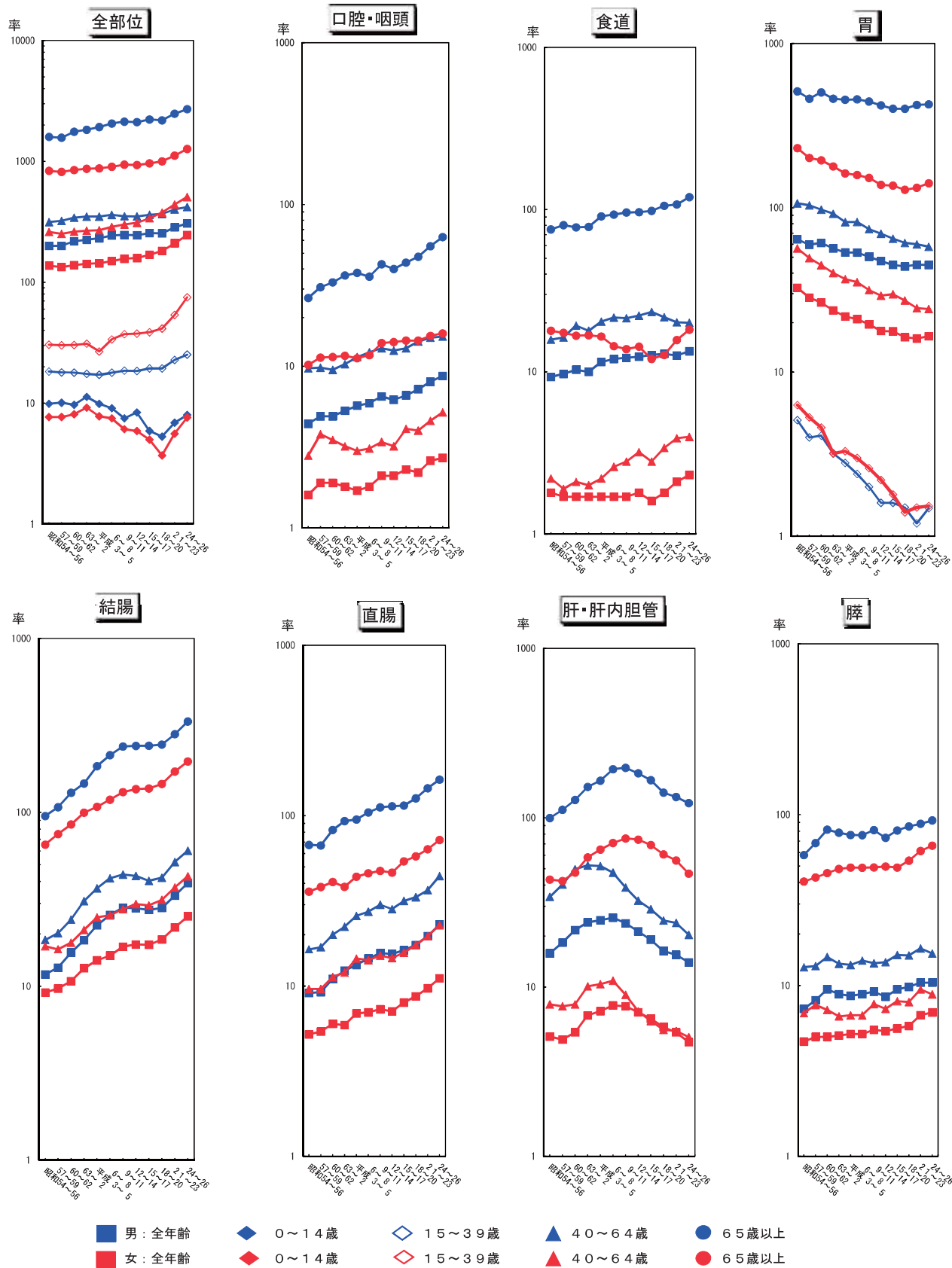


図 13 - 1 主要部位別 年齢階級別年齢調整り患率の比較

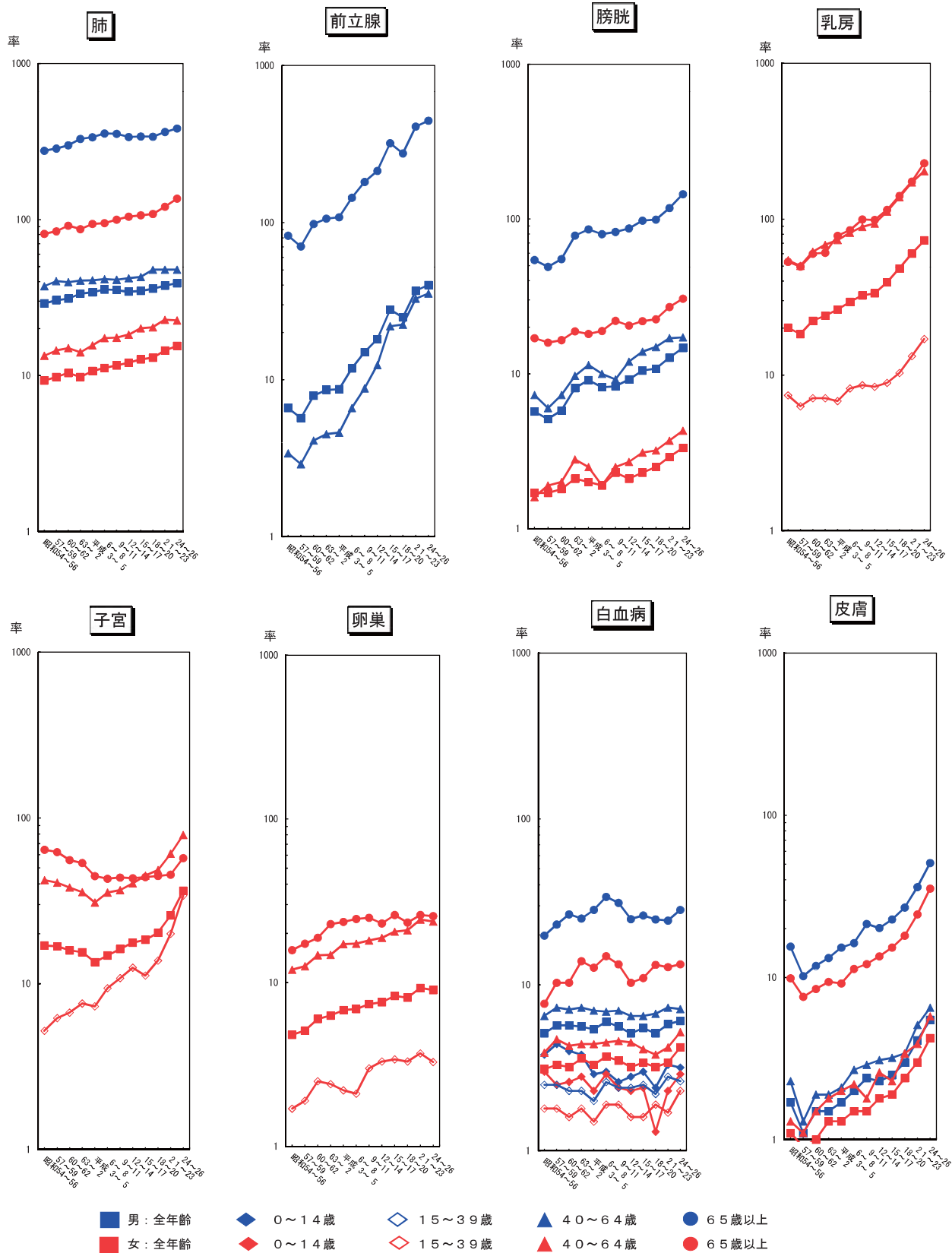


図 13 - 2 主要部位別 年齢階級別年齢調整り患率の比較

(3) 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の年次推移

全部位と対策型がん検診が実施されている中で胃、肺、子宮、乳房の部位について、全年齢、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上の年齢階級別の人口10万対の年齢調整り患率、年齢調整死亡率を経年的に図示した。(図14)。

この図及び(付表23)より、り患率と死亡率の差(開き)が経年的に大きくなっていることが観察される。また、高齢となるに従って、り患率と死亡率の差(開き)が小さくなっている。

部位別にみると、胃はり患率、死亡率ともに減少傾向を示している。肺、乳房のがんは上昇している。また、年齢階級別にみると、胃、肺は高齢となるに従ってり患率も高くなっているが、乳房、子宮は、各年代によるり患率の変化はみられない。

肺はり患率と死亡率の差(開き)が高齢となるに従って小さくなっている。

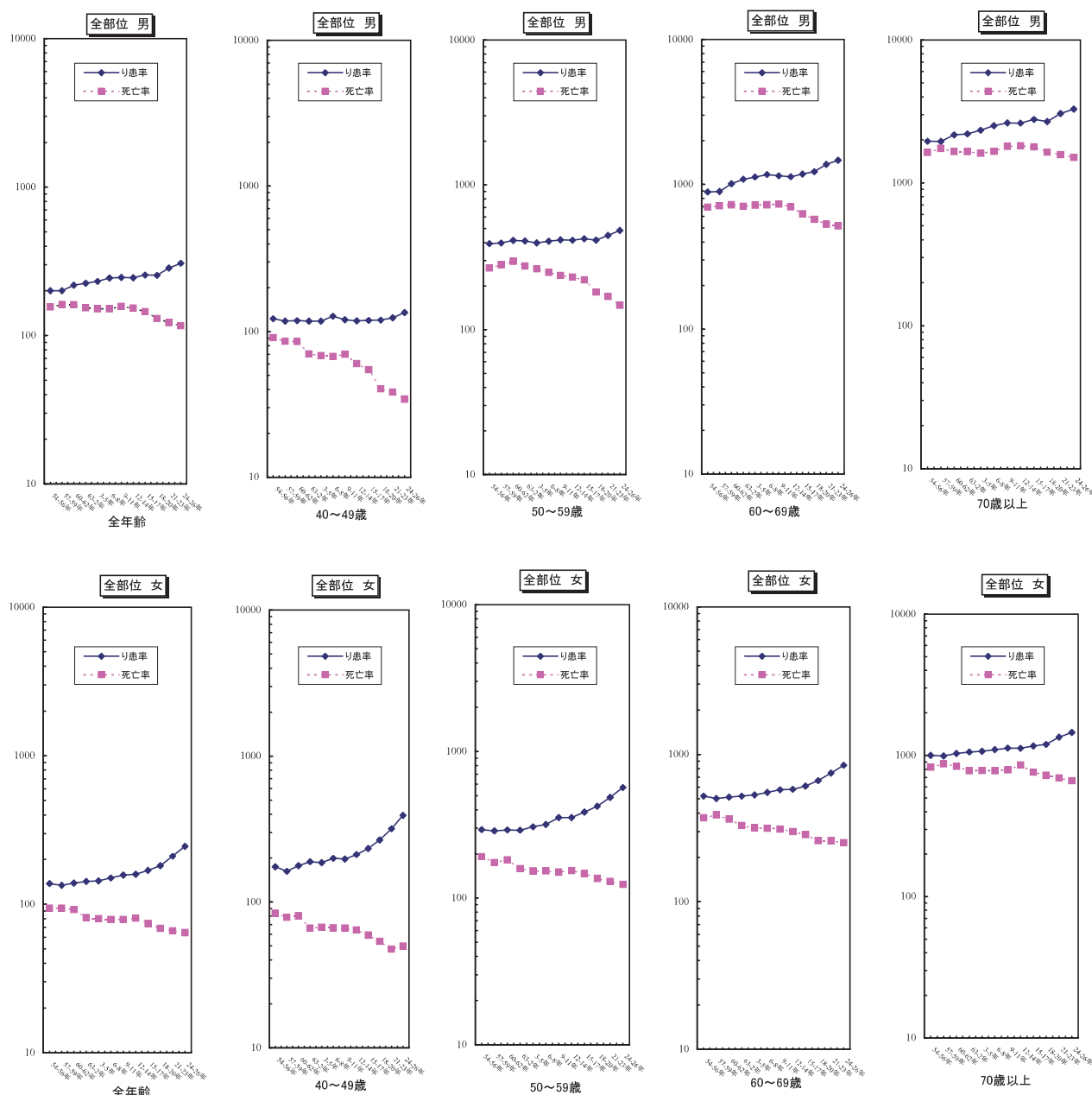


図14－1 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の経年変化

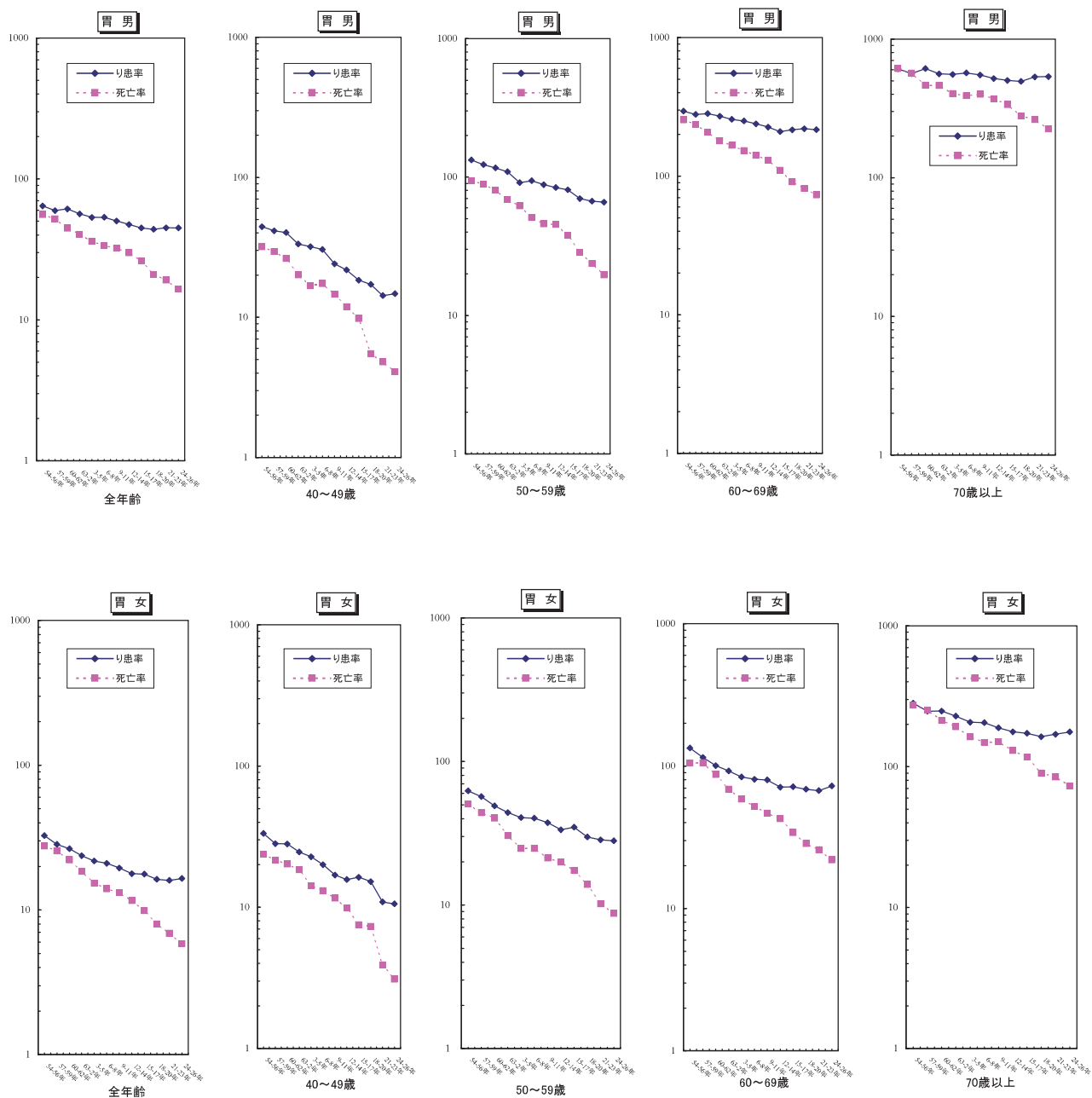


図 14 - 2 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の経年変化

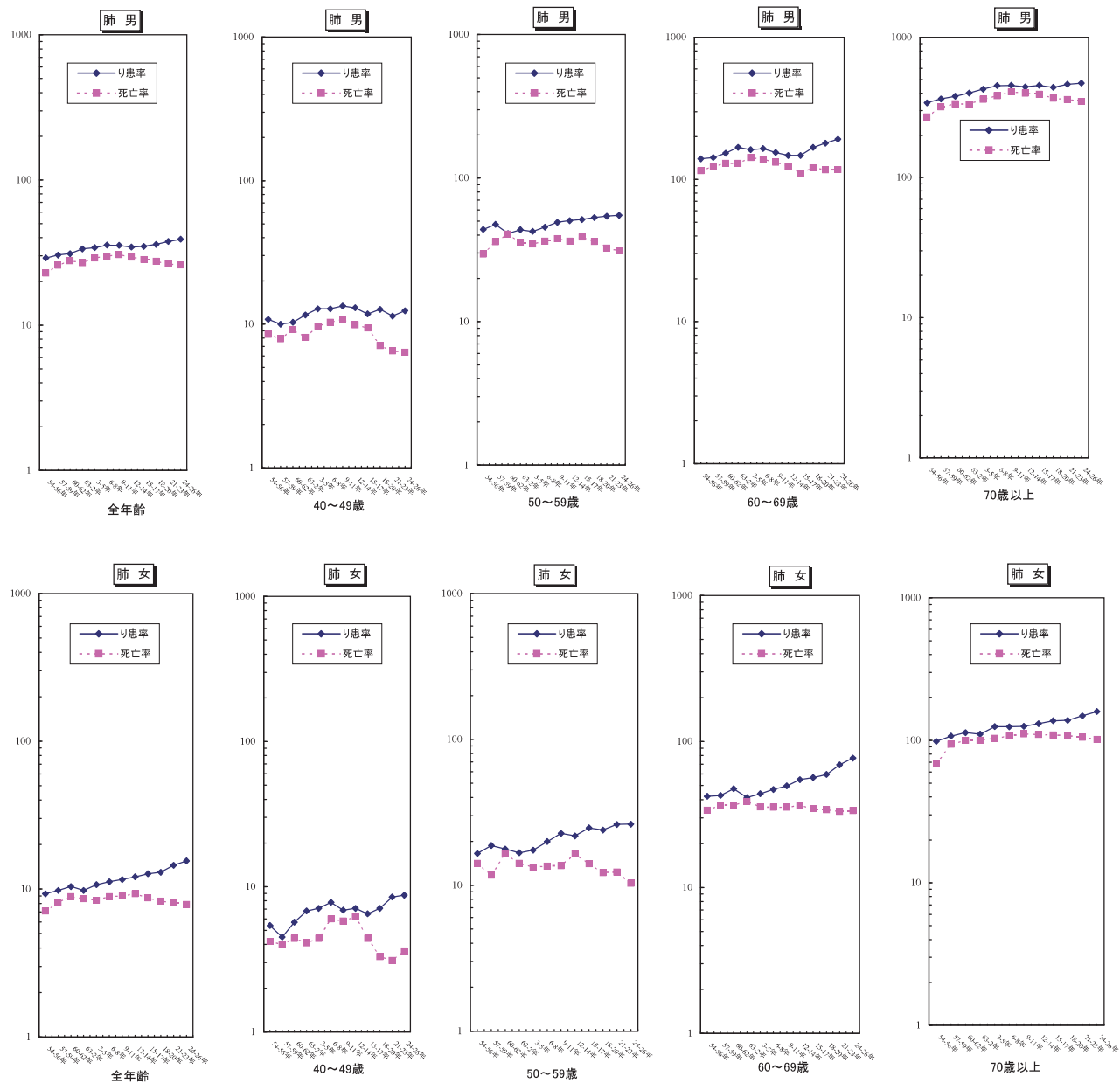


図 14 - 3 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の経年変化

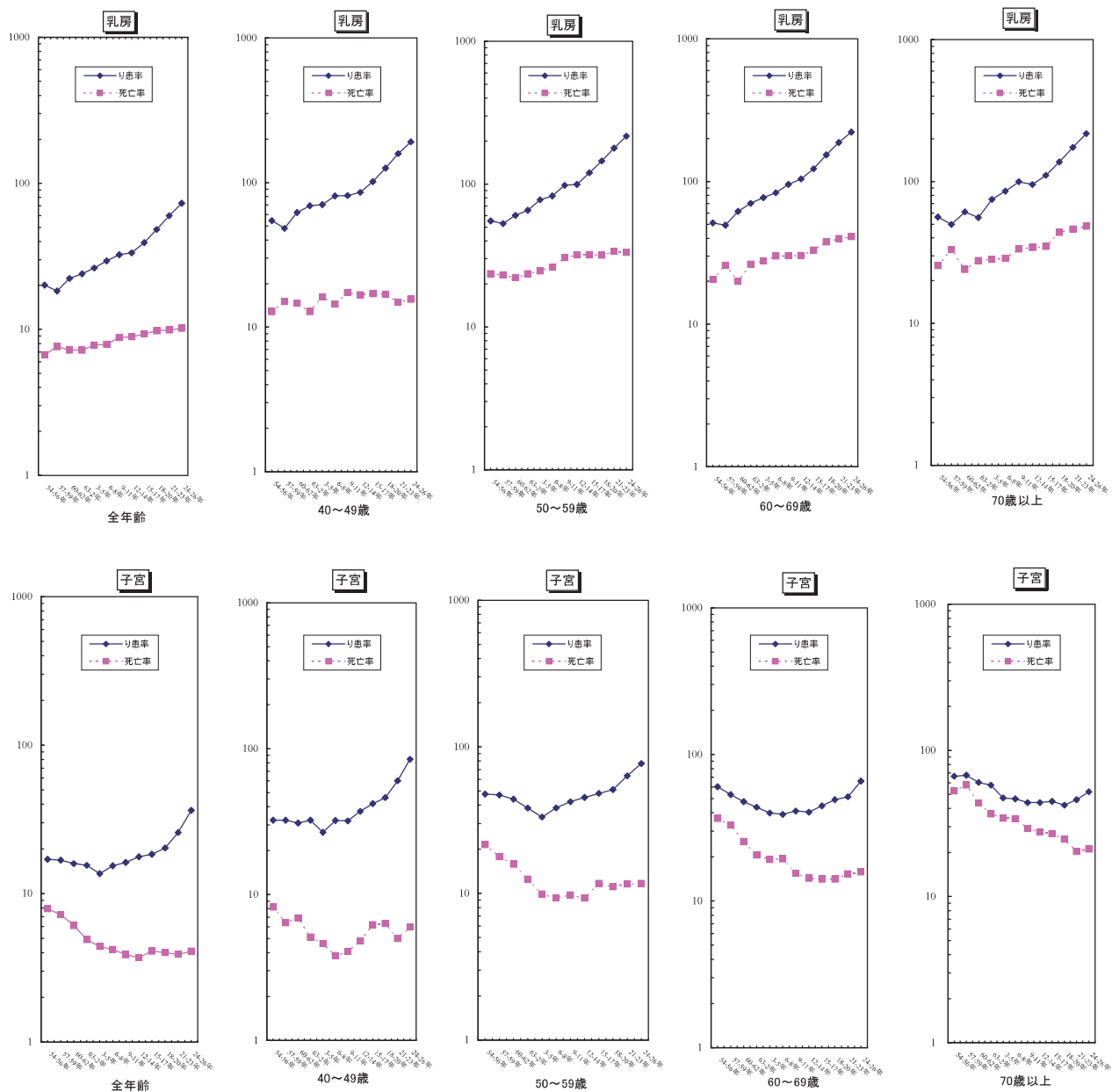


図 14 - 4 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の経年変化

4. 登録の精度（届出と診断の精度）

地域がん登録（悪性新生物登録事業）では、県下の各医療機関からの届出票と、死亡票からの届出漏れ患者の登録により、り患数を算定している。この算定されたり患数が、当該地域の真のり患数をどの程度反映しているかを示す指標の一つとして、り患数に対する死亡票からのみ登録された患者の割合（以下「死亡票のみの割合」という。）が用いられている。また、届出された資料の診断の精度の指標として、届出り患数またはり患数に対して、診断方法としての組織診断が実施された患者数の割合（以下「組織診の割合」という。）が用いられている。死亡票の割合が低いほど「地域がん登録」で算出した、り患率の信頼性が高く、組織診の割合が高いほど診断の精度が高くなる。

平成 25 年の登録の精度は、死亡票のみの割合が 9.1%であり、組織診の割合（届出り患数に対する）は 87.0%であった（表 6）。平成 24 年の精度と比較すると、死亡票のみの割合は 11.5%から 9.1%へと良くなった。組織診の割合は 82.7%が 87.0%へと上昇した。なお、過去 5 年間をみると、死亡票のみの割合は良くなりつつある。地域がん登録の目標として、死亡票のみの割合を 20%以下にすることが望まれているが、平成 22 年より 20%以下を達成した。

届出の精度が悪かった川崎南部も 15.2%となり、県下全域で地域がん登録の目標 20%以下を達成した。

県下では、最も精度が高い地域が湘南西部（6.4%）、次いで横須賀・三浦（7.3%）、横浜南部（7.8%）、湘南東部（7.8%）と続く。

登録の精度を主要部位別にみると、死亡票のみの割合が低い部位は皮膚 1.8%、子宮 2.5%、喉頭 3.0%、乳房 3.9%、甲状腺 4.0%、前立腺 4.5%であり、組織診の割合が高いのは、皮膚 98.9%であった。逆に、死亡票のみの割合が高いのは脳 21.1%、骨 20.8%、膵 19.3%、肝・肝内胆管 19.0%、胆のう・胆管 17.7%であり組織診の割合が低いのは、肝・肝内胆管 34.0%、膵 61.6%、胆のう・胆管 68.9%であった。（表 6、図 15）。

二次保健医療圏別にみると、死亡票のみの割合が低いのは湘南西部 6.4%、横須賀・三浦 7.3%、横浜南部 7.8%、湘南東部 7.8%となり届出の精度は非常に良くなってきた。逆にこの割合が高かったのは県西 16.3%であった。組織診の割合は全地域 87.0%と良好で、特に県央 93.1%、川崎南部 90.3%、横浜南部 89.3%と良好である。（表 6－2）。市区町村別は図 16 及び付表 10、11 に示した。

なお、地域別の精度の違いを検討する際には、患者の居住地域と診断・届出医療機関の所在地域とが異なる場合があることを注意しておく必要がある。

表 6 登録の精度（届出と診断の精度）

1.主要部位別

平成25年

部 位	ICD-10	り患数 (I)	届出り患 数 (R)	死亡票のみ の数 (D)	組織診・ 細胞診の 実施数 (H)	(I)に対する死亡票 のみの割合 (D/I) (%)	(R)に対する組織診・ 細胞診の割合 (H/R) (%)
全部位	C00-C96・D06	56,626	51,482	5,144	44,773	9.1	87.0
口腔・咽頭	C00-C14	1,093	1,008	85	963	7.8	95.5
食道	C15	1,673	1,547	126	1,428	7.5	92.3
胃	C16	7,250	6,539	711	5,810	9.8	88.9
腸	C18	7,273	6,682	591	5,917	8.1	88.6
直腸	C19-C20	3,353	3,138	215	2,826	6.4	90.1
肝・肝内胆管	C22	2,186	1,771	415	603	19.0	34.0
胆のう・胆管	C23-C24	1,246	1,025	221	706	17.7	68.9
膵	C25	2,082	1,681	401	1,036	19.3	61.6
喉頭	C32	300	291	9	277	3.0	95.2
肺	C33-C34	6,434	5,522	912	4,945	14.2	89.6
骨	C40-C41	48	38	10	35	20.8	92.1
皮膚	C43-C44	1,176	1,155	21	1,142	1.8	98.9
乳房	C50	5,708	5,487	221	4,912	3.9	89.5
子宮	C53-C55・D06	2,414	2,353	61	2,293	2.5	97.5
卵巣	C56	645	587	58	533	9.0	90.8
前立腺	C61	4,729	4,514	215	4,137	4.5	91.6
腎	C64	1,011	939	72	788	7.1	83.9
膀胱	C67	2,133	2,035	98	1,821	4.6	89.5
脳	C71	318	251	67	211	21.1	84.1
甲状腺	C73	645	619	26	593	4.0	95.8
白血病	C91-C95	708	625	83	549	11.7	87.8

2.二次保健医療圏別

地 域	り患数 (I)	届出り患 数 (R)	死亡票のみ の数 (D)	組織診・ 細胞診の 実施数 (H)	(I)に対する死亡票 のみの割合 (D/I) (%)	(R)に対する組織診・ 細胞診の割合 (H/R) (%)
神 奈 川 県	56,626	51,482	5,144	44,773	9.1	87.0
横 浜 市	23,662	21,748	1,914	19,293	8.1	88.7
横 浜 北 部	8,938	8,183	755	7,260	8.4	88.7
横 浜 西 部	7,489	6,894	595	6,075	7.9	88.1
横 浜 南 部	7,235	6,671	564	5,958	7.8	89.3
川 崎 市	7,970	6,940	1,030	5,965	12.9	86.0
川 崎 北 部	4,162	3,710	452	3,049	10.9	82.2
川 崎 南 部	3,808	3,230	578	2,916	15.2	90.3
横 須 賀・三 浦	5,870	5,441	429	4,579	7.3	84.2
湘 南 東 部	4,288	3,953	335	3,401	7.8	86.0
湘 南 西 部	3,858	3,611	247	2,881	6.4	79.8
県 央	4,812	4,425	387	4,119	8.0	93.1
相 模 原	3,758	3,348	410	2,756	10.9	82.3
県 西	2,408	2,016	392	1,779	16.3	88.2

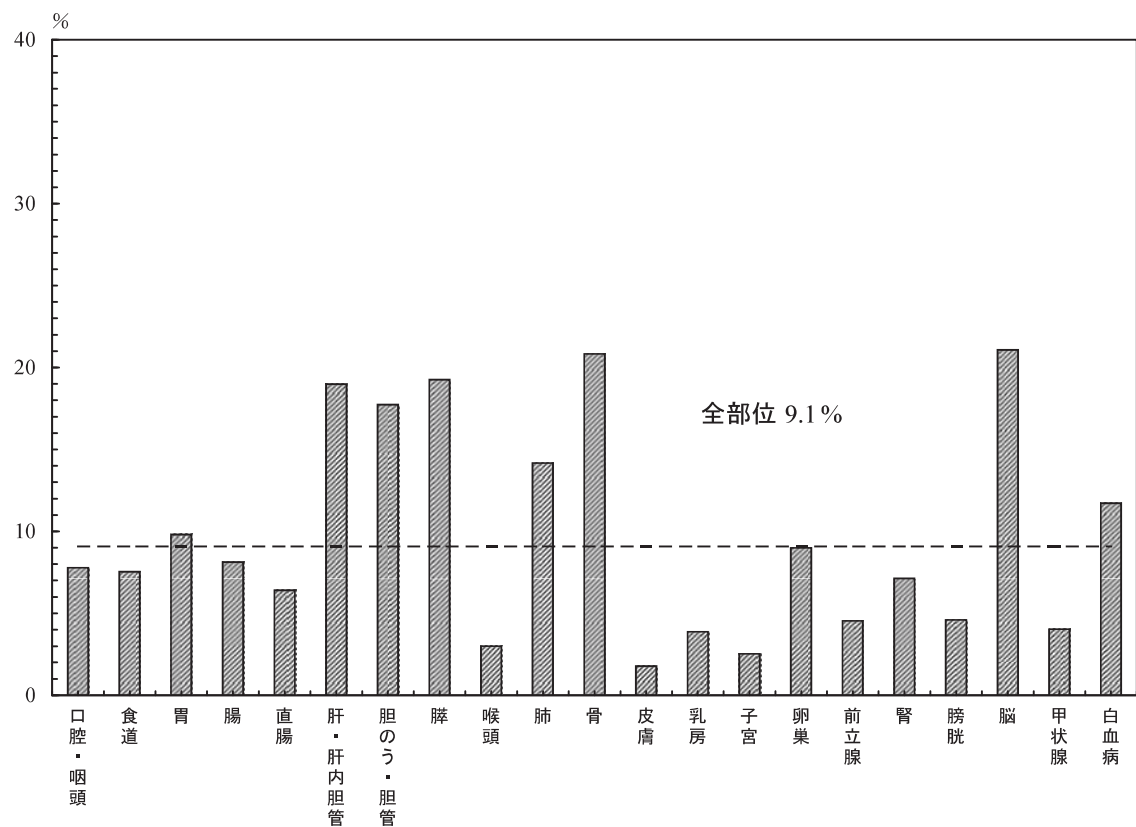


図 15 り患数に対する死亡小票のみの割合（部位別）－平成 25 年－

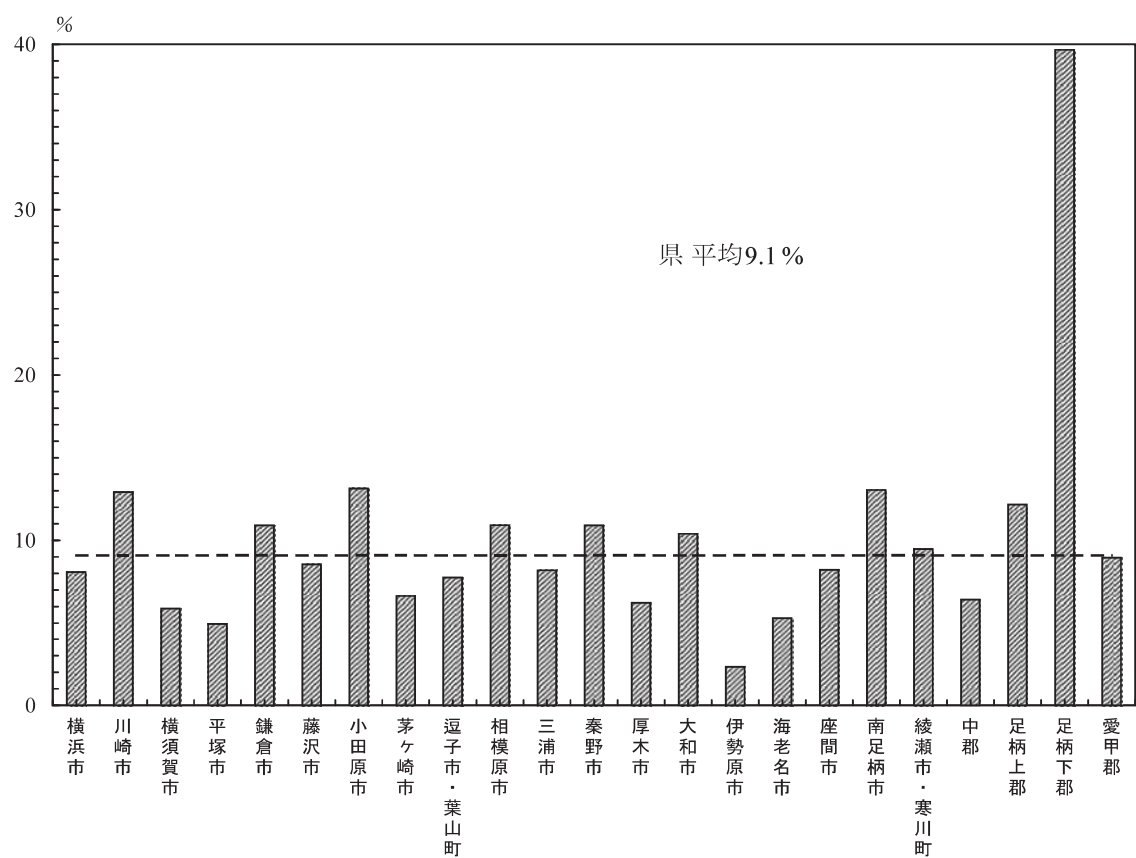


図 16 り患数に対する死亡小票のみの割合（市町村別）－平成 25 年－

5. 受診の動機

(1) 検診で発見されたがん

検診で発見され受診した患者は、届出された患者 51,482 人中 8,518 人（16.5％）であった。検診経由の者を主要部位別にみたものが表 7 である。

対策型がん検診としておこなわれている部位で、胃がん検診、大腸がん（結腸・直腸）検診、肺がん検診、乳がん検診、子宮がん（頸部）検診において発見されたがんの割合を図 17 に示した。検診経由のがんが最も多いのは大腸がんであり、2,038 人であった。

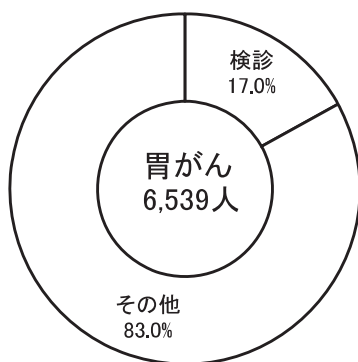
二次保健医療圏別にこれらをみたものが表 8 である。各地域ともに、検診経由の割合の高いものは子宮頸がんである。地域間の比較をする場合には、各地域の届出状況、検診実施状況とを併せてみる必要がある。

表 7 部位別にみた検診経由患者数とその割合（主要部位）

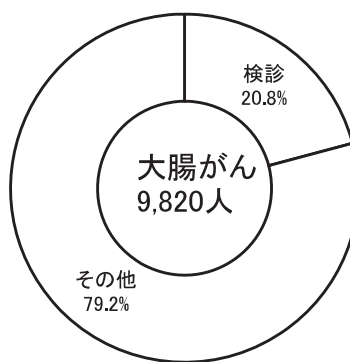
1.主要部位別		平成25年		
部 位	ICD-10	届出患者数(人)	検診経由(人)	検診割合(%)
全部位	C00-C96・D06	51,482	8,518	16.5
口腔・咽頭	C00-C14	1,008	10	1.0
食道	C15	1,547	224	14.5
胃	C16	6,539	1,114	17.0
結腸	C18	6,682	1,401	21.0
直腸	C19-C20	3,138	637	20.3
肝・肝内胆管	C22	1,771	64	3.6
胆のう・胆管	C23-C24	1,025	35	3.4
膵	C25	1,681	81	4.8
喉頭	C32	291	3	1.0
肺	C33-C34	5,522	1,014	18.4
骨	C40-C41	38	-	-
皮膚	C43-C44	1,155	8	0.7
乳房	C50	5,487	1,315	24.0
子宮頸部	C53・D06	1,501	582	38.8
子宮体部	C54	838	103	12.3
卵巣	C56	587	49	8.3
前立腺	C61	4,514	1,327	29.4
腎	C64	939	141	15.0
膀胱	C67	2,035	75	3.7
脳	C71	251	5	2.0
甲状腺	C73	619	99	16.0
白血病	C91-C95	625	63	10.1

表 8 二次保健医療圏別にみた検診経由数とその割合（胃・大腸・肺・乳房・子宮）

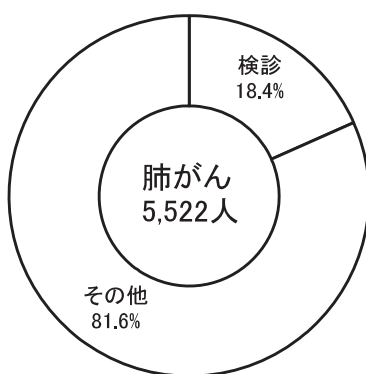
地 域	届出患者数 (R)	検診経由 数	胃			大腸(結腸・直腸)			肺			乳房			子宮頸部		
			届出患者数	検診経由	%	届出患者数	検診経由	%	届出患者数	検診経由	%	届出患者数	検診経由	%	届出患者数	検診経由	%
神奈川県	51,482	8,518	6,539	1,114	17.0	9,820	2,038	20.8	5,522	1,014	18.4	5,487	1,315	24.0	1,501	582	38.8
横浜市	21,748	3,358	2,643	405	15.3	4,187	772	18.4	2,358	394	16.7	2,317	567	24.5	612	224	36.6
横浜北部	8,183	1,459	929	167	18.0	1,655	380	23.0	828	153	18.5	927	255	27.5	265	108	40.8
横浜西部	6,894	956	895	111	12.4	1,300	185	14.2	762	137	18.0	688	148	21.5	171	65	38.0
横浜南部	6,671	943	819	127	15.5	1,232	207	16.8	768	104	13.5	702	164	23.4	176	51	29.0
川崎市	6,940	1,133	869	163	18.8	1,373	330	24.0	762	129	16.9	800	206	25.8	257	111	43.2
川崎北部	3,710	571	443	72	16.3	708	158	22.3	380	63	16.6	492	131	26.6	112	42	37.5
川崎南部	3,230	562	426	91	21.4	665	172	25.9	382	66	17.3	308	75	24.4	145	69	47.6
横須賀・三浦	5,441	900	773	145	18.8	1,016	256	25.2	563	100	17.8	538	100	18.6	145	57	39.3
湘南東部	3,953	774	517	96	18.6	776	199	25.6	379	94	24.8	371	73	19.7	119	48	40.3
湘南西部	3,611	515	538	69	12.8	703	109	15.5	344	57	16.6	356	89	25.0	72	24	33.3
県 央	4,425	910	566	137	24.2	809	156	19.3	500	121	24.2	493	140	28.4	114	46	40.4
相 模 原	3,348	584	370	62	16.8	596	138	23.2	406	75	18.5	405	98	24.2	108	47	43.5
県 西	2,016	344	263	37	14.1	360	78	21.7	210	44	21.0	207	42	20.3	74	25	33.8



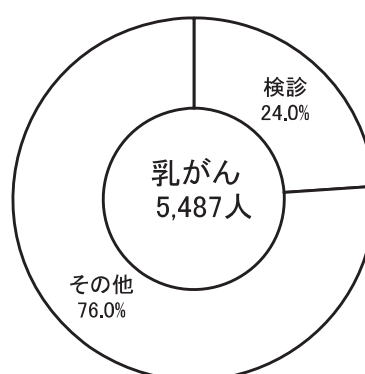
胃	人
検診	1,114
その他	5,425
合計	6,539



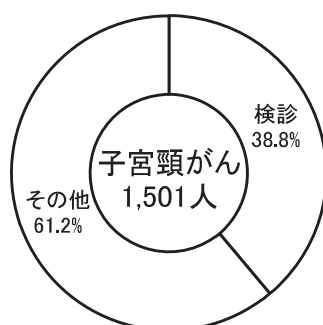
大腸	人
検診	2,038
その他	7,782
合計	9,820



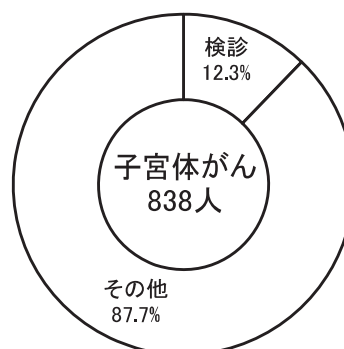
肺	人
検診	1,014
その他	4,508
合計	5,522



乳房	人
検診	1,315
その他	4,172
合計	5,487



子宮頸	人
検診	582
その他	919
合計	1,501



子宮体部	人
検診	103
その他	735
合計	838

図 17 検診で発見されたがん 一屆出り患者数 平成 25 年

6. 診断・治療の状況（部位・地域・病院規模）

（1）診断方法

地域がん登録（悪性新生物登録事業）では、がんの診断方法（X線、内視鏡、細胞診、組織診、病理解剖、画像診断）について調査している。

死亡票のみの者は組織診やどのような診断方法や治療方法が行われたかどうか明確でない場合が多いため、届出り患者 51,482 人を対象として調査した。

主要部位別及び地域別の診断方法について集計したものが（付表 12）である。組織診でがんと確かめられた患者は、届出り患者のうち 83.9%であった。次いで画像診断、内視鏡、X線診断、の割合で高かった。剖検（病理解剖）による確認が 0.8%であるが、これは平成 24 年の 0.7%より上廻っている。組織診の割合の低いものは肝・肝内胆管 31.7%、膵 49.0%であるが、逆に剖検（病理解剖）の割合は、白血病 2.7%、膵 1.7%が高くなっている。

組織診では皮膚が 98.6%、喉頭 94.8%と高い割合を示している。

市区町村・性別の組織診・細胞診の割合は（付表 11）にのせた。男が 86.8%、女が 87.2%で、実施率は女の方が高かった。

（2）治療の状況

届出された患者がどのような治療を受けたのか表 9 に主要部位別・二次保健医療圏別に示した。治療内容は、手術療法、放射線療法、化学療法とこれらの併用療法、体腔鏡的切除、内視鏡的切除、対症療法とに分類した。

手術を受けた患者は、届出された患者の 38.2%であった。これを主要部位でみると、皮膚（88.3%）、甲状腺（83.5%）、乳房（81.5%）、卵巣（81.3%）の割合で高い。放射線療法は喉頭（62.2%）、脳（44.2%）、口腔・咽頭（38.8%）、乳房（26.4%）が高く、化学療法では白血病（70.2%）が最も高い。

併用療法では化学療法と手術療法が届出された患者の 9.3%を占めている。主要部位では卵巣（58.4%）が高い割合であった。

また、二次保健医療圏別に観察すると、手術を受けた患者の割合は県西 49.3%で最も高かった。

表9 治療の状況（届出り患者に対する割合）（％）

1.主要部位別

平成25年

部 位	ICD-10	届出り患者	手術療法 計(S)	放射線治 療(R)	化学療法 (C)	手術+放射 線療法(S +R)のみ	手術+化学 療法(S+ C)のみ	放射線+化 学療法(R +C)のみ	手術+放射 線+化学療 法(S+R+C のみ)	体腔鏡 的切除	内視鏡 的切除	対症 療法	治療 不明
全部位	C00-C96・D06	51,482	38.2	10.2	27.1	2.4	9.3	3.0	1.5	12.2	14.4	4.1	0.2
口腔・咽頭	C00-C14	1,008	46.4	38.8	34.0	5.2	3.5	22.3	6.0	0.2	4.1	1.8	-
食道	C15	1,547	18.9	28.1	40.2	0.4	6.4	19.2	2.4	8.1	25.8	4.3	0.2
胃	C16	6,539	34.5	0.4	19.3	0.0	9.6	0.2	0.1	13.0	28.9	3.3	0.2
結腸	C18	6,682	36.8	0.2	17.6	0.1	9.6	0.1	0.1	24.9	30.2	3.0	0.1
直腸	C19-C20	3,138	34.9	3.5	24.0	0.3	10.6	1.6	1.3	27.7	26.9	3.8	0.1
肝・肝内胆管	C22	1,771	46.4	3.4	41.6	0.1	31.3	0.6	0.5	2.9	1.4	16.7	0.1
胆のう・胆管	C23-C24	1,025	39.9	1.9	26.8	0.5	12.1	0.5	0.4	3.4	18.2	15.3	0.2
膵	C25	1,681	27.3	3.8	48.3	-	13.4	2.2	1.3	0.9	10.8	11.8	0.1
喉頭	C32	291	25.4	62.2	34.7	5.2	1.0	28.2	4.5	2.4	10.3	3.8	0.3
肺	C33-C34	5,522	7.3	16.1	39.2	0.2	1.9	8.3	0.5	28.9	0.3	5.9	0.2
骨	C40-C41	38	71.1	10.5	23.7	7.9	21.1	-	-	-	-	5.3	-
皮膚	C43-C44	1,155	88.3	1.9	2.3	0.8	1.7	0.3	0.2	0.2	0.2	2.0	0.1
乳房	C50	5,487	81.5	26.4	27.0	18.2	15.4	0.3	6.7	0.0	0.2	0.5	0.1
子宮	C53-C55・D06	2,353	78.8	11.4	22.9	1.0	14.0	5.7	2.0	3.7	0.4	3.1	-
卵巣	C56	587	81.3	0.2	65.4	-	58.4	-	0.2	1.9	0.3	1.2	-
前立腺	C61	4,514	16.9	17.2	4.5	0.5	0.3	0.4	0.0	6.9	1.4	2.6	1.2
腎	C64	939	36.0	2.0	8.3	0.3	2.8	1.3	-	45.1	0.5	2.3	0.3
膀胱	C67	2,035	16.2	2.4	34.1	-	6.3	0.9	0.2	1.2	80.1	1.7	0.2
脳	C71	251	74.1	44.2	48.2	3.6	7.6	6.0	33.1	-	0.4	2.8	-
甲状腺	C73	619	83.5	4.7	2.1	3.1	0.7	0.5	0.7	0.8	0.2	1.9	0.2
白血病	C91-C95	625	4.3	2.7	70.2	-	3.2	2.1	0.6	-	-	7.0	0.3

2.二次保健医療圏別

地 域	届出り患者	手術療法 計(S)	放射線治 療(R)	化学療法 (C)	手術+放射 線療法(S +R)のみ	手術+化学 療法(S+ C)のみ	放射線+化 学療法(R +C)のみ	手術+放射 線+化学療 法(S+R+C のみ)	体腔鏡 的切除	内視鏡 的切除	対症 療法	治療 不明
神 奈 川 県	51,482	38.2	10.2	27.1	2.4	9.3	3.0	1.5	12.2	14.4	4.1	0.2
横 浜 市	21,748	37.3	10.4	26.6	2.3	8.8	3.1	1.4	13.2	14.5	3.5	0.2
横 浜 北 部	8,183	37.0	10.1	26.0	2.5	8.5	2.6	1.4	14.2	14.8	3.2	0.4
横 浜 西 部	6,894	39.1	9.0	25.9	2.0	9.3	2.9	1.2	12.2	14.1	3.5	0.2
横 浜 南 部	6,671	35.7	12.0	28.0	2.5	8.5	3.9	1.8	13.0	14.6	4.0	0.1
川 崎 市	6,940	35.9	9.4	26.7	2.4	8.8	2.6	1.3	13.4	15.3	5.0	0.2
川 崎 北 部	3,710	35.2	9.0	28.0	2.6	8.7	2.8	1.4	14.3	14.8	5.0	0.2
川 崎 南 部	3,230	36.8	9.8	25.2	2.1	9.0	2.5	1.2	12.4	15.9	5.1	0.3
横 須 賀・三 浦	5,441	36.5	7.5	26.6	2.0	8.6	2.4	1.4	12.3	16.6	3.5	0.0
湘 南 東 部	3,953	41.6	7.7	25.9	1.3	9.6	3.4	1.0	10.9	16.0	4.2	0.1
湘 南 西 部	3,611	39.7	11.9	29.6	3.4	10.4	3.1	2.3	12.5	14.6	3.0	0.0
県 央	4,425	42.1	11.5	30.4	2.9	11.1	3.3	1.8	9.3	13.0	4.8	0.8
相 模 原	3,348	34.8	15.1	26.6	2.8	8.7	4.5	1.8	11.3	12.0	5.3	0.0
県 西	2,016	49.3	10.4	27.6	2.8	12.2	2.2	1.8	7.9	8.6	5.9	0.2

(3) 受療医療機関

届出患者の受療した病院・診療所について診断、治療、その後の転帰までも含めた延べ受診数を医療機関の規模別にまとめた（表10）。

149 床以下を小規模病院、150－499 床を中規模病院、500 床以上を大規模病院とした。専門病院はがん専門の病院である。

図 18 に全部位、胃、肺、結腸、乳房、子宮の病院規模別・受療状況を示した。

付表 13 に主要部位と二次保健医療圏別病院規模別の受療の状況を示した。

大学病院では口腔・咽頭（56.7%）、甲状腺（55.4%）、喉頭（48.4%）、脳（43.6%）の受療割合が高く、がん専門病院では骨（20.8%）、脾（9.2%）、子宮（9.2%）の受療割合が高い。大規模病院では皮膚、脳、白血病、喉頭の受療割合が高い。地域別にみると大規模病院は横須賀・三浦、大学病院は川崎北部、専門病院は横浜西部の受療割合が高い。県外受療は 1.7%で大部分が東京である。

また、県西は中規模病院への受療割合が高い。

患者の受療には、患者の居住地や医療機関の設置状況、交通との関係があると考えられる。

表 10 病院規模別受診割合の比較（%）

病院規模	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
診療所	1.5	1.9	1.8	1.6	1.5	1.4
149 床以下	0.6	0.5	1.0	1.1	1.1	1.1
150-499 床	24.0	24.3	27.0	31.3	31.9	32.9
500 床以上	25.7	29.7	25.4	27.6	25.6	24.6
専門病院	5.9	6.6	6.5	4.9	5.0	5.1
大学病院	39.6	34.5	38.1	39.7	34.6	33.1
県外	2.8	2.4	0.2	0.2	0.2	1.7

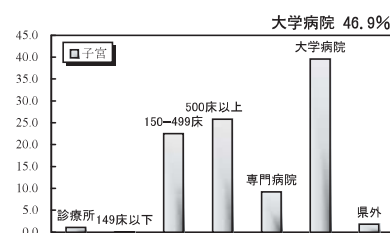
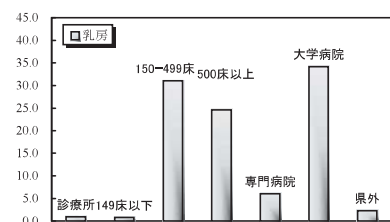
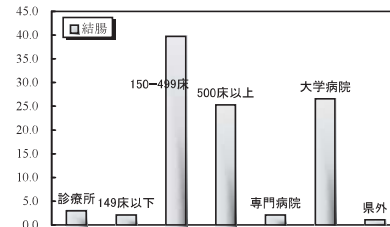
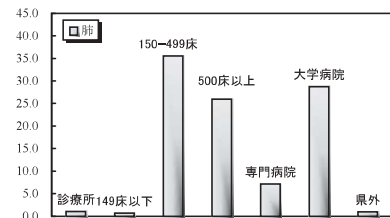
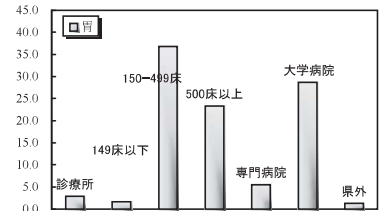
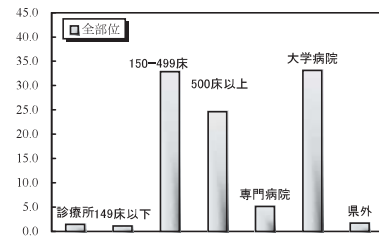


図 18 病院規模別・受療状況(%) 平成 25 年

7. 5年相対生存率

がん統計では患者の予後を示す指標として、届出り患者の実測生存率（累積生存率）及び相対生存率を算出している。相対生存率は実測生存率を期待生存率で割ったものである。生存率の算定にあたっては、登録患者についての生死の確認をおこなっておく必要がある。平成18年度まで人口動態調査死亡票の照合による死亡の確認のみだったが、平成19年度より神奈川県的全市区町村へ住民票照会を実施し、生存確認や居住確認の予後調査が実施出来ている。（付表15）

予後調査は、平成24年から住民基本台帳ネットワークシステムが使用できるようになり、生存確認調査の省力化がはかられるようになった。

主要部位の5年相対生存率について平成18年、19年、20年、21年、22年に診断され、医療機関から届出された患者について表11にのせた。平成18年から平成22年までを比べてみると、男性では喉頭、食道、胃、女性では胃、卵巣の生存率が少しずつ高くなっている。

生存率の高い部位は男性では前立腺(97.5%)、甲状腺(92.0%)、女性では甲状腺(94.7%)、乳房(92.3%)である。逆に低いのは男性では脾(9.9%)、肺(27.6%)、女性では脾(9.7%)、胆のう・胆管(22.2%)である。

表11 部位別5年相対生存率(%)

	部 位	ICD-10	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年
性別	全部位	C00-C96	59.0	60.7	61.0	63.0	63.7
男	口腔・咽頭	C00-C14	62.1	54.7	54.5	58.0	56.5
	食道	C15	36.2	36.9	40.0	38.3	42.6
	胃	C16	62.3	63.2	64.2	62.6	65.3
	結腸	C18	76.1	76.6	77.1	78.0	77.7
	直腸	C19-C20	68.1	73.6	71.9	74.2	71.1
	肝・肝内胆管	C22	29.2	30.4	34.9	31.3	33.0
	胆のう・胆管	C23-C24	22.6	27.7	21.5	32.5	27.8
	脾	C25	8.9	10.0	10.4	8.0	9.9
	喉頭	C32	76.2	78.4	74.7	79.1	86.4
	肺	C33-C34	25.9	26.7	27.3	28.1	27.6
	骨	C40-C41	35.7	60.7	39.3	20.2	54.7
	皮膚	C43-C44	97.0	90.1	94.8	99.9	86.4
	前立腺	C61	96.3	95.8	95.2	98.6	97.5
	腎	C64	76.3	82.6	78.7	79.3	83.4
	膀胱	C67	83.1	82.2	84.8	82.3	84.4
	脳	C71	27.0	28.1	40.9	31.2	33.3
	甲状腺	C73	82.6	90.8	91.6	92.6	92.0
	白血病	C91-C95	29.2	39.5	42.3	37.1	43.2
	部 位	ICD-10	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年
性別	全部位	C00-C96	66.0	69.5	69.5	70.3	70.2
女	口腔・咽頭	C00-C14	67.6	70.9	70.6	65.6	70.8
	食道	C15	38.1	40.7	49.2	53.9	48.2
	胃	C16	60.8	63.3	61.4	63.9	66.2
	結腸	C18	72.0	73.3	76.2	77.0	74.8
	直腸	C19-C20	72.4	75.4	73.3	76.5	75.0
	肝・肝内胆管	C22	27.8	30.4	29.9	30.7	34.1
	胆のう・胆管	C23-C24	21.4	20.0	22.4	19.3	22.2
	脾	C25	8.5	8.9	7.4	11.8	9.7
	喉頭	C32	76.2	94.9	92.4	86.7	75.4
	肺	C33-C34	41.4	40.9	40.3	42.8	42.9
	骨	C40-C41	49.7	74.0	82.5	46.9	56.1
	皮膚	C43-C44	90.0	92.8	90.2	93.1	90.4
	乳房	C50	90.2	92.3	91.0	93.2	92.3
	子宮	C53-C55	71.1	73.7	77.5	76.0	77.9
	卵巣	C56	59.3	59.1	59.0	61.0	62.1
	腎	C64	75.5	69.7	74.7	79.4	78.9
	膀胱	C67	75.3	76.7	81.9	78.9	78.7
	脳	C71	18.2	43.6	37.5	32.9	33.6
	甲状腺	C73	93.4	93.8	94.9	95.4	94.7
	白血病	C91-C95	39.1	41.7	45.1	39.0	46.8

8. 他都道府県の地域がん登録との比較

我が国の地域がん登録は平成 24 年より全国で実施されるようになった。歴史をふりかえると、平成 16 年度より第 3 次対がん 10 ヶ年戦略事業が開始され、地域がん登録の標準化と精度向上の取り組みを支援し、わが国のがんの実態を正確に迅速に把握し、がん対策に寄与することとなった。そして「がん予防対策のためのがん罹患・死亡動向の実態把握の研究」班が立ち上がり、平成 18 年 10 月に国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部に地域がん登録室が開設された。そこで「一定水準の登録精度と登録方法が確保できている地域がん登録を重点的に支援・整備する方針」を改め、平成 19 年度より、「地域がん登録を実施している、もしくは事業開始を計画している全ての地域を対象とした標準方式の普及に取り組む」こととなった。地域がん登録は全国 47 都道府県で実施され、平成 24 年のがんのり患よりすべての都道府県よりデータの提出が可能となり、表 12 へ都道府県別り患数・死亡数・年齢調整り患率として載せた。

また、本県のがんのり患および死亡状況を他都道府県と比較したものが次ページの表 12 と付表 30 である。(平成 29 年 3 月集計)

表 12 都道府県別り患者・死亡数・年齢調整り患率（平成 25 年）

平成 25 年

府 県	人 口	罹患数	死亡数	DCN 割合（％）	DCO 割合（％）	年齢調整り患率(男)	年齢調整り患率(女)
北 海 道	5,409,770	40,889	18,453	19.9	18.4	437.2	325.8
青 森 県	1,329,469	9,420	4,928	7.7	1.9	425.4	296.0
岩 手 県	1,290,103	9,658	4,296	12.4	11.5	435.7	293.2
宮 城 県	2,342,467	15,694	6,253	7.7	7.7	463.8	308.2
秋 田 県	1,044,157	9,352	4,113	0.4	0.2	487.7	336.9
山 形 県	1,134,302	9,221	4,015	10.5	3.0	458.1	300.9
福 島 県	1,978,928	13,696	6,116	11.1	1.8	421.4	293.8
茨 城 県	2,950,444	18,650	8,425	9.4	6.2	398.3	288.2
栃 木 県	1,989,932	12,901	5,628	13.5	8.7	420.3	291.5
群 馬 県	1,986,058	13,171	5,932	6.4	3.4	408.6	294.6
埼 玉 県	7,239,837	40,285	18,100	21.8	15.3	378.5	252.2
千 葉 県	6,280,746	34,500	16,035	9.6	5.4	359.6	259.8
東 京 都	13,451,785	85,025	33,349	15.8	13.0	450.3	326.4
神奈川県	9,156,785	52,480	22,509	12.7	10.1	396.9	279.2
新 潟 県	2,328,166	16,952	7,876	2.8	2.8	441.2	284.9
富 山 県	1,075,069	8,808	3,517	10.3	10.3	478.3	331.0
石 川 県	1,161,367	9,070	3,416	8.9	8.9	502.1	332.3
福 井 県	792,485	5,371	2,324	3.9	1.3	407.7	289.2
山 梨 県	846,384	5,116	2,495	5.9	4.4	365.0	258.8
長 野 県	2,112,704	15,073	6,150	8.2	5.6	406.0	294.7
岐 阜 県	2,053,732	14,113	6,033	13.9	12.3	414.0	288.2
静 岡 県	3,726,535	23,181	10,511	9.8	7.1	387.7	276.0
愛 知 県	7,469,255	43,444	18,491	10.2	5.1	412.5	283.9
三 重 県	1,837,241	12,047	5,229	9.7	7.9	405.5	286.1
滋 賀 県	1,423,282	8,485	3,554	7.0	4.2	421.8	280.6
京 都 府	2,618,363	19,576	7,649	14.7	14.6	478.1	318.7
大 阪 府	8,853,144	61,259	25,528	7.8	6.2	465.0	310.3
兵 庫 県	5,560,064	37,801	16,288	17.1	15.9	441.8	280.1
奈 良 県	1,381,403	10,087	4,162	9.6	6.3	457.2	297.5
和歌山県	977,073	8,007	3,451	10.2	7.3	476.1	317.4
鳥 取 県	575,555	4,873	2,025	3.7	2.1	503.9	333.5
島 根 県	698,989	5,720	2,562	6.7	3.6	452.1	289.9
岡 山 県	1,930,356	13,582	5,560	7.1	1.7	439.9	294.8
広 島 県	2,840,242	23,953	8,212	4.6	2.9	539.7	371.7
山 口 県	1,419,505	10,749	5,007	8.9	5.5	434.7	285.0
徳 島 県	767,693	5,098	2,482	13.4	7.9	374.7	269.9
香 川 県	981,021	7,054	3,055	9.6	5.4	429.2	300.3
愛 媛 県	1,403,026	10,444	4,440	10.8	7.1	442.9	294.2
高 知 県	741,264	5,404	2,537	11.2	6.6	402.4	291.1
福 岡 県	5,069,406	34,257	15,187	10.6	6.6	442.8	313.0
佐 賀 県	836,442	5,601	2,758	8.1	2.4	404.4	286.8
長 崎 県	1,389,703	10,599	4,925	4.1	4.1	446.9	314.2
熊 本 県	1,796,040	12,176	5,269	9.4	7.4	415.8	279.7
大 分 県	1,182,999	7,887	3,592	12.5	7.1	380.7	263.9
宮 崎 県	1,119,732	8,666	3,526	26.0	20.5	438.3	313.6
鹿 児 島 県	1,673,254	12,072	5,471	28.7	25.3	417.0	289.6
沖 縄 県	1,408,152	7,363	3,001	6.3	5.2	389.6	306.1

平成 29 年 3 月集計

（年齢調整り患率は日本人人口を使用）
 全国がん罹患モニタリング集計 2013 年罹患数・率報告
 国立がん研究センターがん対策情報センター報告書より

9. 平成 25 年のがんり患数と死亡数の比較

がん統計やがんの予防、医療活動の評価のためには、地域がん登録に基づく、り患統計とともに人口動態統計に基づく死亡統計（付表 16、17、18）も使い、常に両者を比較しながら、検討をおこなう必要がある。

特に、り患統計では、その地域の真のり患をどの程度反映しているのかを吟味すべきである。現在この指標として、（当該年のり患数）÷（当該年の死亡数）（I/D 比）を用いている。

（1）全部位のがん

本県の平成 25 年のがんり患数は、同年の死亡数の 2.5 倍である。この比の値が 1.5 以下の場合、届出もれのあることが推定される。

本県では、昭和 62 年からは 1.5 を越えたので、今後この値が下がらぬよう、医療機関よりがん患者の届出をさらに充実させていく必要がある。

（2）部位別の比較

主要部位別にみると皮膚（12.8）、前立腺（6.5）、子宮（6.1）、甲状腺（5.8）、乳房（5.7）、喉頭（5.0）が高い値を示し、膵（1.1）、胆のう・胆管（1.3）、肝・肝内胆管（1.3）が低い値である。

表 13 主要部位別死亡数に対するり患数の比

平成 25 年

部 位	ICD-10	死亡数 (D)	り患数 (I)	I/D
全部位	C00-C96・D06	22,509	56,626	2.5
口腔・咽頭	C00-C14	506	1,093	2.2
食道	C15	878	1,673	1.9
胃	C16	2,890	7,250	2.5
結腸	C18	2,100	7,273	3.5
直腸	C19-C20	1,001	3,353	3.3
肝・肝内胆管	C22	1,715	2,186	1.3
胆のう・胆管	C23-C24	956	1,246	1.3
膵	C25	1,818	2,082	1.1
喉頭	C32	60	300	5.0
肺	C33-C34	4,395	6,434	1.5
骨	C40-C41	22	48	2.2
皮膚	C43-C44	92	1,176	12.8
乳房	C50	1,009	5,708	5.7
子宮	C53-C55・D06	393	2,414	6.1
卵巣	C56	348	645	1.9
前立腺	C61	729	4,729	6.5
腎	C64	292	1,011	3.5
膀胱	C67	446	2,133	4.8
脳	C71	139	318	2.3
甲状腺	C73	112	645	5.8
白血病	C91-C95	462	708	1.5